

[MSD35-P07]災害対応・ベースマップ、環境モニタリングに資する ⑪ 高分解能光学・SARおよびライダーミッション（その6）

ミッションの概要	
科学的特徴・新規性	シリーズで衛星を継続運用することで、自然災害の予測精度向上、バイオマス推定精度の向上、精緻なモニタリング手法の技術向上に貢献
技術的特徴・新規性	光学・SARは民間主導の小型衛星コンステレーションを補完する役割。極軌道ライダーは我が国初の試み
準備状況	
開発マイルストーン	第84回宇宙開発利用部会で審議された「小型光学衛星による観測システムの開発・実証（民間主体）」および「高度計ライダー衛星の開発・実証（JAXA主体）」と歩調を合わせた開発
打ち上げ時期	光学：基幹光学衛星が喪失しているため、できるだけ早期。SAR：2030年（ALOS-4後継）。衛星ライダー：2032年

	衛星・センサ1	衛星・センサ2	衛星・センサ3	
センサ	広域高分解能光学	広域高分解能SAR	ライダー	イメージャー
機数	4機	1機	1機	
衛星軌道	太陽同期準回帰軌道		極軌道衛星	
軌道高度	約500km	約600km	400km	
衛星質量	500-1,000kg	2,000-3,000kg	200-300kg	
分解能	-パンクロ:0.4m以下 -マルチ:2m以下	-スポットライトモード (1x3m&30km) -高分解能モード (3-10m&200km) -広域モード (10-100m&700km)	-フットプリント (10m) -レーザービーム数 (5点以上)	-マルチ:3m以下 -観測幅:1km程度
観測モード	-観測幅:50km以上 (複数機で実現) (1機あたり12.5km) ※ALOS-3以上	※ALOS-4以上		
波長帯	ALOS-3と同等以上 (6バンド)	Lバンド	1,064nm/ 532nm	R/G/B/IR

